

第10組 興久寺 西松 基

棄てきれない私

得度される方を対象とした研修会でお話をする内容を考えていた時に思ったことです。得度を受けるということは仏弟子になること。仏弟子になるためには三つの髻「もとどり」、すなわち他人に勝とうとする心、自らの利益を追い求める心、自らの名誉を求める心、この三つの心を棄てることを意味します。これを棄て切って初めて真の仏弟子になったということです。これは僧侶・仏弟子という立場において必要がないという事です。さて、今お話ししたこの髻「もとどり」というもの、名声や財力や権力を求めて止まない私の価値観や、欲望を満たすことだけを人生の喜びとすることを私は捨てることができるのでしょうか？

宗祖親鸞聖人は、この髻「もとどり」を棄てきれない自分を一生間悩み続けて行かれた方です。仏弟子の目指す人生と真逆の人生を歩んできたと言ってもいいかもしれません。常に自分自身に心に悩み、また常に悩む人に寄り添っていかれた人生ではなかったかと思います。それこそが仏弟子としての歩みではないかと思います。

私はこれからの人生の中で、この三つの心を棄てることができるのでしょうか。きっとできないでしょう。その棄てきれない自分という事を自覚しながら、これからの人生を通して、問うていかなければならないのかと思います。